

北海道 札幌西間税会

昨年、全間連のモデル会を終了するとともに全国で唯一、会員増強目標を達成した札幌西間税会（福島勝男会長）。

道内で最大の会員数を有する同会は、消費税への理解と普及啓発と併せ、未来を担う子どもたちに音楽を通じて心豊かに育ってほしいとの思いから、昨年は同会の歴史の中でも最大の事業ともいえる「諏訪内晶子ヴァイオリンコンサート」を札幌コンサートホールKitaraで開催した。



諏訪内晶子氏とピアニストの阪田知樹氏

子どもたちにヴァイオリンの音色を

このリサイタルの成功の影には、様々な事業で音楽を取り入れている同会のモットーと、大のクラシックファンで「音楽は磁石のように人を惹きつける」という福岡正英名譽顧問の全面協力と「札幌の子どもたちに諏訪内さんのヴァイオリンの音色を届けたい」との強い思い、「モデル会の目標達成と、世界の第一線で活躍している人の音楽を聴かせたい」との福島会長の思いが込められ、札幌市内の中・高校生や大学生、楽器を習っている小学生や未就学児童など、ほぼ満席の約1800人が招待された。

1732年製作のゲアルネリ・デル・シエズ「チャールズ・リード」の奏でるクラシックの楽曲が会場に響き渡り、割れんばかりの拍手が鳴りやまない中、幕を閉じた。音楽を通じた同会の活動は今後も続く。

仙台 栗原間税会

宮城 栗原間税会佐藤俊雄会長は、宮城県の内陸北部に位置し、面積の8割近くが森林や原野、田畑で占められた自然豊かな田園都市、栗原市で活動を展開している。

租税教室の開催等に尽力

築館税務署の管轄となる栗原市では例年、市内の小学校、中学校、高校を対象に租税教室を実施しており、令和4年度は18校で開催された。コロナ禍前は、同会の尽力などにより、市内の全小中学校で租税教室が行われていた。同会では、租税



若柳小学校で行われた租税教室

教室の講師も務めている。佐藤会長が講師として行われた若柳小学校の租税教室では、参加した児童全員から感想が寄せられており、また、このような租税教室の感想は、築館税務署にも掲示されている。

同会では、租税教育に役立ててもらおうと「世界の消費税」図柄入りのクリアファイルも積極的に活用している。例年、租税教室を行った学校の児童・生徒を対象に約1500枚を寄贈している。

佐藤会長は、講師を務める租税教室において、税金の意義や大切さ、学校や教科書など児童にとって身近なものや東日本大震災の復興などにも税金が使われていることなどのほか、地域の歴史なども伝えている。租税教室で学んだことが、将来、何かのきっかけになればと話す。

関東信越 大宮間税会

「税の標語」世界の消費税クリアファイル「税制アンケート」を3大事業と位置づけ、積極的に取り組む埼玉・大宮間税会（屋間孝一会長）。

魅力ある活動で地域をけん引

税の標語は、大宮税務署と連携して管内の高校と専門学校に依頼し、昨年度は1万700点もの作品が集まった。

クリアファイルは、小中学生の租税教室で役立ててもらおうと、昨年度は8500枚を同署に寄贈したほか、地元のふれあいフェスタでも2000枚を配布。屋間会長は、「間税会を認識してもらおう重要な広報ツール」とし、毎年1万枚以上をフル活用している。

また、全間連の税制改正要望の基となる税制アンケートも役員を中心に、毎年地域の中小企業の声をすくい上げている。

屋間会長は、「楽しく間税会活動を行い、正しい税知識を学ぶ大宮間税会」をモットーに活動を続け、会員増強でも実績を上げてきた。モットーを具現化しているのが女性部鈴木由紀子部長による管内幼稚園での消費税の紙芝居活動や、青年部（島澤加津志部長）を中心とし、税を学ぶ江戸文化研究会の開催だ。また、元年の創立30周年には記念研修旅行としてシンガポールの税務当局を訪問した。魅力ある活動で地域をけん引し、会員数を着実に伸ばしながら、さらなる高みを目指す。



創立30周年のシンガポール研修旅行で

東京・東村山間税会（名取三貴子会長）は、東村山税務署の開署とともに今年50周年を迎えた。歴史ある同会の活動の柱は、中学生を対象とした「税の標語」の募集だ。応募数は、東京国税局間税会連合会で数年連続第1位を誇る。次世代を担う子どもたちに税を身近に感じてもらうことを目的として実施し、令和4年度は、管内5市（東村山市・小平市・清瀬市・東久留米市・西東京市）の中学校40校、4583人の生徒から1万461

東京 東村山間税会

8点もの応募があった。「税の標語」の受賞者の表彰式は、「中学生の税に関する作文」（多摩武蔵納税貯蓄組合連合会）と合同で開催。コロナ禍で中止していた表彰式を、昨年は3年ぶりに行った。名取会長は「受賞者の皆さん一人一人の希望に満ちた輝く瞳に感動いたしました」と話す。

また、管内の小中学校での「租税教室講師派遣」も事業の一つとし、会を挙げて租税教育への取組みに力を結集しており、子どもたちに税の正しい知識が醸成され、多数の応募に弾みをつけているのだらう。

中学生対象の「税の標語」応募数が管内1位に



管内5市で納連と合同による表彰式を開催

このほか、リニューアルしたばかりのホームページや、会報誌を通じて会の内外に向けた情報発信も強化。「間税会」の知名度アップも目標に、地域に根ざしたきめ細やかな名取会長の活動は、今後も期待が掛かっている。

割以上を占めるまでになった。「一つの単会で数千件の応募に対応するのは大変手間がかかる。ネット経由の応募だと、事務局の労力が大幅に減るので、応募の際にはネットを利用していただけよう、広報に力を入れている」（荒木会長）。

標語の募集のほかにも、同会は研修活動に積極的に取り組んでおり、今年2月の企業見学では、田原市の林養魚（株）を訪れ、最新の養殖システムの見学やサーモンへの餌やりを体験。また、東海地方を代表する名利・豊川稲荷を会場に開催した研修会では、税務署の職員からインボイス制度の最新情報について説明を受けた。

11月11日にはコロナ禍で中止となっていた管内の税の作品を集めた合同表彰式が数年ぶりに開催される。全間連推奨キャラクターのかんちゃん、しょうちゃんも登場する予定で、式典を盛り上げる。

展開する11会

『消費税 正しく育てる 間税会』をキに根ざした活動に支えられながら、消費間連傘下の代表選手として、コロナ禍DPRに貢献している11会を紹介する。

実施している。コロナ禍で活動を控えるなど、非会員への加入勧奨ができない状況が数年続いていたが、今年は会員交流会を再開する予定で、新規会員獲得へ巻き返しを図る。

事業の一つとして業種別部会研修（公益事業部、建設業協会、自動車販売店協会）を実施しているが、公益事業部では特別会計を行っている富山県、市町村等を対象に研修会を実施するなど、全国的に珍しい取り組みを行っている。また、昨年から今年にかけて実施した消費税インボイス制度研修会では延べ600名程が受講した。

釣専務理事は、今後とも財政基盤の維持・拡大の為、組織委員会を中心に会員増強に努めるとともに、「会員の皆様には間税会で多くの方と交流することで、経済界に幅広い人脈を作り、商売の発展に繋げて頂きたい」と語った。

ロータリークラブとともに実施した。当日は、争点に設定された消費税のあり方について、生徒はそれぞれのグループで議論しながら、マニフェストを作成。演説会では各グループが自らの主張を熱く訴えた。

若者の税や政治への無関心が指摘されて久しいが、模擬選挙に向けて、生徒が意欲的に消費税の事前学習に取り組む姿が見られるなど、実りある企画だったことから、同会では今後も実施していきたいとしている。

このほか、呉市恒例のお祭り「くれ食の祭典」の会場では、身近な税を題材にした寸劇を披露している。公演では、同会をはじめとする呉税務関係団体連絡協議会のメンバーらが主婦や警察に扮して熱演。市民に楽しんでもらいながら、税の啓蒙活動に取り組んでいる。

土岡会長は「まだまだ会員数が少ないので、会員増強に取り組んで、倍ぐらいにしたい」と意気込みを見せる。

東海 東三河間税会

愛知・豊橋税務署管内の4市(豊橋、豊川、蒲郡、田原)の会員で組織する東三河間税会(荒木義夫会長)は「税の標語」の募集で全国に先駆けて導入した二次元コードを活用したインターネットによる応募が好評だ。昨年度も5000件を超える全応募のうち約4分の1がネット経由の応募だったが、今年度はさらにその割合が増え、全体の4



豊川稲荷での研修会後の様子

二次元コードを活用し標語を募集

積極的な活動を

全国間税会総連合会は、50年間にわたりヤッチフレーズに、同会傘下単体会の地域費税の定着・推進に取り組んでいる。各層を乗り越え躍然たる活動を展開し、消費税

北陸 富山間税会

富山間税会(朝日重剛会長)は全国トップクラスの会員数を誇る。平成29年6月に前会長から1438人社のバトンを引き継ぎ、組織委員会をはじめとする専門委員会を中心に積極的に会員増強に取り組み、令和5年4月現在で1641人社まで伸長した。コロナ以前は会員交流会の特別ゲストとして地元出身の朝乃山関を招くなど活発な会活動を



きき酒会(交流会)に160名が参加

会員交流会、研修会で会員増強を図る

広島 呉間税会

戦艦「大和」などが建造され、東洋一の軍港・日本一の海軍工廠としての歴史を持つ広島県呉市で、呉間税会(土岡正和会長)は多彩な活動を展開している。

その一つが租税教育と関連づけた高校生による模擬選挙。管内の高校で「未来は私たちが担う〜政治にふれてみよう」をコンセプトに、昨年初めて呉南



「くれ食の祭典」での寸劇の様子

高校生が模擬選挙で税を学ぶ

四国 高知間税会

高知間税会(熊沢慎一郎会長)は、全国でも有数(5年4月現在826会員)の会員数を誇る間税会である。

広報活動の一環として、発行している会報誌「間税会高知」は昨年100号に到達するなど、昭和60年8月に発足以来38年に渡り地域で活躍している。

同会は、毎期会員増強に力を入れているが、ここ数年はコロナ禍で会員増強活動が停滞。昨年後半より組織委員会の開催

会員増強活動が本格化

などを通して、活動が本格化してきており、会員増強に向けて役員一丸となって取り組んでいる。

また、高知税務署との連携の中で、令和5年10月より始まるインボイス制度の理解を深めるために、会員向けに「消費税インボイス制度」の説明会を共催し実施した。さらに、同署職員も参加し、昨年は3年ぶりに「税を考える週間」に街頭キャンペーンを実施。

樋口事務局長は、「当会は県民性にも後押しされていくこともあり、非常に横のつながりが強い組織であると考えている。年2回のゴルフコンペや研修会等への参加により会員同士の親睦も図られ、また、理事会や各種委員会を通して役員間の意思の疎通も図られている。今後も組織力の強みを活かした活動を展開していきたいと考えている」と語った。

福岡 博多間税会

九州最大の都市、福岡市の中で、九州の「顔」となる公共交通機関のターミナルが揃う博多地区を中心に活動を展開しているのが博多間税会(安恒寿人会長)だ。

同会では、「消費税、活かすみんなの間税会」をモットーに、役員を中心に会員一丸となって明るく積極的に会活動に取り組んでいる。

主な事業活動として研修会等の開催が盛んで、正しい租税知識の習得と普及に努めているほか、

ホームページをリニューアル

会員相互の交流を深める場としても好評で、多くの会員が参加している。

その中でも、11月の税を考える週間では、税務当局と連携し、消費税などの税務研修会を開催。説明会後には、JR博多駅前広場に移動し、大々的に街頭広報を実施している。多くの人で賑わう中、「世界の消費税」図柄刷込みクリアファイルにe-Taxのリーフレットを入れて配布し、広く税の周知を図った。

安恒会長は、「博多駅界隈は人の往来が多く、街頭広報の活動を通じて、間税会という団体を知ってもらいたい機会になっている」と手紙を語った。

南九州 延岡間税会

宮崎県延岡市を中心に活動している延岡間税会(興相俊茂会長)、今回は同会の青年部(岡田利明会長)について紹介したい。

同部は平成28年8月の設立以来、インボイス制度に係る周知や勉強会、税務署幹部との意見交換会を開くなど、岡田会長を中心に積極的に活動している。

中でも、租税教育に特に力を入れており、その活動は他会からも注目を集めている。

間税会らしい租税教育を確立へ

同部では、年に7回ほど租税教室を開催しているが、講師が一方的に講義するのではなく、生徒自身が考えながら、税金の仕組みや意義を学んでもらいたいという思いがある。

例えば、生徒らに新しい税金を提案してもらい、その税金を考えた背景、誰が納税者になるのか、集めた税金をどのように使うのかなどを意見交換することで税への関心を深めてもらおうと実践されている。

南九州間税会連合会の総会では、岡田会長がこれまで取り組んできた租税教育について発表し、好評を得た。

岡田会長は「本会での租税教育をまずは南九州間税会全体に広め、いずれは全国的にも普及させたい。間税会らしい租税教育の確立に向けて努力していく」と抱負を語った。

沖縄 沖縄中部間税会

沖縄本島の中部に位置する沖縄市やうるま市、宜野湾市などを地盤に活動を展開している沖縄中部間税会(翁長淳会長)は、自主的な申告納税体制の確立を通して、税務行政の円滑な運営に協力しているほか、会員サービスの充実にも力を入れている。

最大の会員サービスは「会員同士の親睦交流を深め、参加して楽しい会にすること、税知識の習得をお手伝いすること」として、意見交換・

会員サービスの充実を図る

交流会をはじめ、年間を通しての各種講演会や研修会を開催し、会員からも好評を得ている。

また、「税を考える週間」や確定申告時期には、市民に税の意義や役割、税務行政に対する理解を深めてもらうべく、沖縄市内の大通りに面して懸垂幕を掲げ、「週間」や消費税の周知、e-Taxによる申告・納税などをPRしている。

租税教育や啓蒙活動にも注力しており、「世界の消費税」図柄刷込みクリアファイルと消費税のパンフレットを地元の小中学校や高校、民間団体等へ寄贈し、消費税への関心と理解を求めている。

翁長会長は「今後も活動が充実したものになるよう、役員一丸となって会員サービスに努め、会員増強と組織強化を図っていきたい」と抱負を語った。



「四国連女性部研修会」にて



税を考える週間に街頭広報



熊本国税局への表敬訪問



「税を考える週間」掲揚式

全間連創立50周年記念式典と祝賀会

式典には多数の来賓や約750人の会員が参加



消費税完納運動の推進
消費税啓発活動の拡充



式辞を述べる片岡直公会長



祝辞を述べる住澤整国税庁長官

華やかに、盛大に祝う



謝辞を述べる内山弘通東間税会会長



祝賀会で開会の辞を述べる関口雅章副会長



祝賀会で祝辞を述べる青木孝徳主税局長



会旗は東京から北海道へ

全国間税会総連合会創立50周年記念式典が9月20日、東京都港区の東京プリンスホテルで開催された。

記念式典には、国税庁の住澤整長官、田原芳幸課税部長、東京国税局の富山一成局長、漢昭弘課税第二部長、財務省の藤山智博税制第二課長など多数の来賓のほか約750人の会員が参加し、盛大に行われた。

創立50周年に向け会員増強に尽力した単位会20会と、全間連の活動に尽力した功労者142人に、片岡直公会長から表彰状が手渡され、受表彰者を代表して千葉・東間税会の内山弘通会長が、「本日の受表彰を励みとして、新たな時代を迎える消費税制度の状況変化を踏まえながら微力ではありますが、なお一層力を尽くしてまいりますと存じますので、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます」と謝辞を述べた。

引き続き行われた記念講演では、ジャーナリストで公益財団法人国家基本問題研究所理事長の櫻井よしこ氏が演題「激動する世界と日本の進路」を講演。櫻井氏は、日中関係を中心に

日本を取り巻く世界情勢の現状について詳しく説明し、「今はできるだけ早く中国から離れて、私たちのやり方で道理を通して透明な会計をし、アジアの人たちも潤っていくように、日本人としての決意と意志を持っていきたい」と熱く語り、「時間がない、結論にきちんとたどり着けなかったのが残念なので、この次にまた呼んでいただきたい」と思います」と笑顔で講演を締め、会場は大きな拍手に包まれた。

その後の記念祝賀会では、財務省の青木孝徳主税局長が祝辞を述べ、国税庁の星屋和彦次長による乾杯のあいさつで、華やかに祝賀がスタート。

会場では、NTT東日本東京吹奏楽団が、昭和を代表する作曲家・団伊玖磨氏の『祝曲行進曲』の重厚感溢れる楽曲から、スタンダードナンバーのカーペンターズ『青春の輝き』まで幅広い4曲の演奏を披露した。

また、片岡会長の母校の立教大学体育会応援団によるアトラクションが行われ、リーダーの力強い声援と振り、チアリーダーズの可憐で華やかなダンスで会場を盛り上げた。



櫻井よしこ氏が「日本の進路」を熱弁

櫻井よしこ氏が講演



NTT東日本東京吹奏楽団が会場を盛り上げる



星屋和彦国税庁次長が乾杯のあいさつ



立教大学体育会応援団が力強いパフォーマンス